



写真1 八幡大菩薩御縁起 (御調八幡宮蔵)



写真2 八幡大菩薩御縁起 (恒石八幡宮蔵)

広島大学研究教育総合資料館(仮称)の 設立に向けて(第二回)

広島大学蔵貴重資料について

文学部長 ◆ 湯 浅 信 之

広島大学に所蔵される

貴重資料

前回概観したように、広島大学に研究教育総合資料館(仮称)を創設することが、大学全体の宿願になっているが、いったい広島大学にどのような貴重資料があるのかは、大学の構成員にも案外知られていない。そこで今回と次回には、そうした資料の中からいくつかを紹介してみたい。

角筆文献資料

現在、文学部には「角筆資料研究室」と名づけられた部屋があって、盛んな研究と資料収集が行われている。角筆(かくひつ)とは、鉛筆や万年筆など近代の筆記具が出現する以前に、毛筆と並んで用いられた古代の筆記具である。日本では正倉院に蔵される古文書に、角筆で書き入れられた文字があり、以後明治にいたるまで、日本全国で広く用いられていた。

角筆は箸(はし)に似た形状で、先端が尖らせてあり、その尖った先端で紙の表面を凹ませて文字や絵を書きつける。これまでに木製や竹製また象牙製の遺物が発見されている。紙の表面を凹ませるだけだから、墨を用いて毛筆で記入された文字や絵に比べれば、見落とされやすい。

この角筆による書き入りを発見し、長く研究を領導したのが、本学名誉教授の小林芳規(こばやし・よしのり)博士であった。小林博士は「角筆文献の国語学的研究」(一九八七年、汲古書院刊)によって平成三年度の恩賜賞・学士院賞を受賞された。

現在、日本全国から一三三三三(十一月十日現在)の角筆文献が発見されており、本学の角筆資料研究室にはそのうちの約一割に当たる角筆文献が集められている。そのほか、大英図書館蔵の敦煌(とんこう)文書や、ネパールで発見されたチベット経典における角筆による書き入れなど、海外での角

筆文献の発見に基づく写真やパネルが多数集められていて、世界で唯一の角筆資料研究センターとなっている。

右に述べたように、小林博士の角筆文献による日本語の歴史の研究は、国語史研究に画期的な成果をもたらしたが、今後は角筆文献を用いて、さらに広範な研究の推進が期待される。たとえば宗教史・美術史など、文化史的研究への展開である。

写真1と2は、広島県三原市御調八幡宮と山口県宇部市恒石八幡宮とに所蔵される「八幡大菩薩御縁起」に見られる住吉明神の絵像である。これらの絵の下絵は角筆で描かれている。これら二つの絵が互いに関係なく描かれたとはちよつと考えにくい。それではいったい誰が、いつごろ、これらの絵の祖本を両神社の関係者に伝えたのか。瀬戸内海文化圏の成立を考える上からも、興味深い問題を提起する。

角筆資料研究室には、このほか千利休（宗易）が自刃したときの住居の間取りを角筆で描いた絵図など、稀少資料が多く収集されている。広島大学研究教育総合資料館が完成すれば、これらの貴重な研究資料を、広く地域の人々や内外の研究者に利用してもらえらるることになり、その学問的な波及効果は計り知れないものがあるうと思われる。

藓苔植物(こけ植物)標本

理学部生物科学科の植物標本庫(保有標本数は七十万点を超す)の中で、

量的質的に主要部をなすものである。総数約四十五万点にのぼり、その規模は全国大学中一位にランクされている(日本学術振興会編、大学所蔵標本総覧、一九八二)。

本理学部植物学教室分類学講座教授であった堀川芳雄博士が、一九二二年に、藓苔類の分類学的研究、生態学的研究ならびに地理学的研究のために収集したものが母体となっている。その後、同講座の歴代教授の指導による教育・研究活動を通じて、国内外から採集あるいは交換によって収集されたものである。これらには、学名のもととなった基準(タイプ)標本を多数含む、学術上非常に価値の高い主要なコレクションとして、以下のようなものがある。



写真3 藓苔植物(こけ植物) オオカサゴケ(ハリガネゴケ科・藓類)

① 堀川芳雄日本産藓苔植物コレクション(約七万点)

② 鈴木兵二コレクション(約三万点)

③ 藤久次コレクション(約三万点)

④ 関太郎コレクション(約三万点)

⑤ スコフィールドコレクション(約五千点)

⑥ 南米アンデス産藓苔植物コレクション(約一万一千点)

⑦ 台湾・ミクロネシア産藓苔植物コレクション(約五千点)

⑧ 東南アジア産藓苔植物コレクション(約五千点)

⑨ 南極産藓苔植物コレクション(約千点)

⑩ 藓苔類標準標本集

以上の中には、近年の地域開発のために絶滅してしまつた藓苔植物の標本をも含んでおり、こうした標本の価値はいよいよ高まってきている。広島大学研究教育総合資料館に収められ、活用されれば、地域に開かれた大学というのみにとどまらず、世界に向かって開かれた大学としての広島大学の名を、人々に知らせることになるであろう。

(ゆあさ・のぶゆき)

学内ニュースから

#「霞祭」を終えて

今年も十一月十二、十三日に第27回「霞祭」が無事終了した。当日は、十一月中旬とは思えないほどの陽気で、外ステイジでは、たくさんの人がビール片手に楽しんでいただけたのではないかと。また、土肥先生による骨髄バンクの特別講演も非常に盛況で、医学部・歯学部主催の「学祭」として、とても有意義な二日間だった。私は、僧越ながら委員長という大役を努めさせていただいたが、きちんと仕事をしないうために、医学部・歯学部の学生課のかたがた、関係者各位にご迷惑をおかけしたが、しかし、各局長、局長が一生懸命頑張ってくれたおかげで、立派な「霞祭」を開催することができた。「学祭」というのは、表が華やかであるほど、裏方の仕事はたいへんである。それでも、不平も言わず仕事をしてくれたかたがたには心から感謝するとともに、この「霞祭」での経験が、将来何らかの形で役に立つてくれることを願っている。(歯学部歯学科三年 重中政信)

